

令和5年度当麻町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、上川地方のほぼ中央部に位置し、水田総面積に占める水稲作付けの割合が約71%で、水稲栽培を主体とした中、農業経営の安定を図るべく施設野菜・花きとの複合経営、一部畑作物（大豆、そば、飼料作物）の栽培が行われている。

当麻町産米は、北海道農協米対策本部が定める北海道米ランキングにおいて、12年連続最高位ランクを獲得しており、「北海道一の米産地」との評価が定着されることを目指している。

当地域においては、過去より主食用米を中心に水稲作付けの推進を図り、非主食用米を転作作物の中心作として推奨し、当麻農業の経営安定を図ってきた。今年度は、主食用米の生産の目安が、前年度の作付実績より約12ha減少したことにより、需要に応じた生産として主食用米の更なる作付転換が求められるが、主食用米を最大限作付けし、水張転作を推進し続けることで、当地域の継続的な水田機能を維持・確保し当麻農業の経営安定に繋げていくことが重要である。

地域の課題としては、農業者の高齢化が進み、農家戸数が減少している傾向にあるため、将来の農業の担い手を育成・確保すべく、的確に情報を発信することが重要である。また、経営体当たりの耕地面積が拡大傾向にあるため、スマート農業等の導入により、農作業の効率化を図ることが一層求められてくると捉えている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域においては、水稲と施設園芸品目の複合経営の充実を推奨しており、野菜・花きなどの高収益作物に対しては、産地交付金等を活用することで、作付面積の維持・拡大を図り、水田における同作物の作付面積は昨年約55haであった。

高収益作物については、産地と消費地がより結びつく販売展開を行い、今後想定される畑地化にも併せて対応していくことで経営の安定を図っていく。生産者に対しては、産地交付金や施設栽培に関する補助制度などに関し、適切な情報提供を行い、当再生協議会が推進する基幹作物の安定的な生産・供給を図り、収益力の向上による経営の高水準化を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

近年の農家戸数の減少、高齢化に対応し、作物の作付面積の維持・拡大を実現するため、各生産者の事情や「人・農地プラン」を踏まえながら、今後の担い手への計画的な農地の集積・集約化を推し進める。当地域においては、今後も水稲を中心とした施設園芸品目の複合経営に取り組んでいき、将来にわたって水田が有効利用されるよう取組むとともに、水稲を組み入れない作付体系が定着している圃場を中心に、必要に応じて関係機関とも調整しながら畑地化を推進し、農地の維持管理を行う。

また、ブロックローテーションについては、米のタンパク質含有率の増加や、排水性・作業効率の低下等の現場の課題を把握しつつ、関係機関と連携して必要な対応策を検討しながら、大豆・そば等の連作障害回避等を目的に推進を検討する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

競争力の高い主食用米は、他産地との差別化を図り、販売業者等の需要に応えるため、独自の白米販売強化と販路拡大に努める。また、農業者所得の柱となるため、栽培の低コスト化・省力化の推進を強化し、生産基盤を維持・拡大することが重要である。

(2) 非主食用米

ア 加工用米

加工米飯など「米」としての品質が求められる用途の引き合いがあるため、加工用米の需要動向を注視しながら、水張転作の重要品目として取り組み、主食用米の調整手段ではなく、売れる米として生産に取り組む。

イ 飼料用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、水張面積を維持していくため、多収品種に限らず、飼料用米を作付け転換の一つのツールとして位置づけ、生産に取り組む。

ウ 米粉用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、水田機能維持・確保のための水張転作の一つのツールとして需要に応じて生産に取り組む。

エ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、国内外の米の新市場の開拓を図るため、飼料用米、米粉用米を除く新規需要米の生産振興を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

需要動向や販売先等の意向調査をし、需要に対応でき、且つ収量性の高い優良品種への模索・転換を図った上で生産を図る。また、安定した品質・収量を目指し、且つコスト削減に努めるために、湿害を回避するための排水対策の取組みと除草対策等の推進を強化し、また増収・品質向上を目的に牧草の種子の追加播種を促し、更には団地化による作業効率の向上により生産コスト削減を図り、作付面積の維持・拡大と、品質及び収量の安定化を図る。

(4) そば

転作作物として重要な農作物であるため、収量性向上に向けて、湿害を回避するための排水対策の取組みと除草対策等の推進を強化し、更には団地化による作業効率の向上により生産コスト削減を図り、作付面積の維持・拡大と、品質及び収量の安定化を図る。

(5) 高収益作物（野菜・花き等）

当地域における水田農業にとって重要な産地ブランドの多い作物であり、販売先からの需要も高いため、水稲との複合経営によって、農業所得の確保と産地ブランドとして更なる強化を図るべく地域振興作物として位置づけ奨励を図る。

安全・安心な農産物が求められる中、今後産地として生き延びていくための大きなツールとなることから、消費者・実需者からニーズの高い野菜、花きに対して、作付面積拡大を図る。

【地域振興作物】産地交付金の活用方法の明細に定める作物一覧（別紙参照）

(6) 耕畜連携

利用協定に基づき生産された飼料作物の供給を受けた家畜の排せつ物からなるたい肥を散布することで資源循環を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2,159		2,149		2,149	
備蓄米	159		0		0	
飼料用米	17		16		16	
米粉用米	0		1		1	
新市場開拓用米	18		18		20	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	180		371		371	
麦	0		0		0	
大豆	132		155		105	
飼料作物	515		509		531	
・子実用とうもろこし	16		13		17	
そば	205		182		186	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	1		10		20	
高収益作物	55		56		61	
・野菜	50		51		54	
・花き・花木	5		5		7	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		1		1	
畑地化	0		342		342	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）		目標値	
1	そば・デントコーン・子実とうもろこし	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（そば）	205	ha	186	ha
			平均収量（そば）	42	kg/10a	70	kg/10a
			作付面積（デントコーン）	18	ha	14	ha
			平均収量（デントコーン）	3,370	kg/10a	4,100	kg/10a
			作付面積（子実とうもろこし）	15	ha	17	ha
			平均収量（子実とうもろこし）	433	kg/10a	500	kg/10a
2	大豆	品質・収量向上除草対策加算	作付面積	131	ha	105	ha
			1等大豆生産率	0	%	5	%
3	大豆	品質・収量向上除草対策加算	作付面積	131	ha	105	ha
			1等大豆生産率	0	%	5	%
4	そば・大豆・デントコーン（子実とうもろこし含む）牧草	排水対策助成	作付面積（そば）	205	ha	186	ha
			平均収量（そば）	42	kg/10a	70	kg/10a
			作付面積（大豆）	131	ha	105	ha
			平均収量（大豆）	160	kg/10a	205	kg/10a
			作付面積（デントコーン）	18	ha	14	ha
			平均収量（デントコーン）	3,370	kg/10a	4,100	kg/10a
			作付面積（子実とうもろこし）	15	ha	17	ha
			平均収量（子実とうもろこし）	433	kg/10a	500	kg/10a
			作付面積（牧草）	480	ha	500	ha
平均収量（牧草）	322	kg/10a	360	kg/10a			
5	大豆	品質安定加算	作付面積	131	ha	105	ha
			1等大豆生産率	0	%	5	%
6	そば	品質安定加算	作付面積（そば）	205	ha	186	ha
			平均収量（そば）	42	kg/10a	70	kg/10a
			等級そば生産率	98.5	%	99	%
7	子実とうもろこし	品質安定加算	作付面積	15	ha	17	ha
			販売金額	18,561	円/10a	19,800	円/10a
8	そば・野菜・花き・豆類・馬鈴しょ・デントコーン・子実とうもろこし	担い手振興作物加算	作付面積（そば）	205	ha	186	ha
			担い手割合（そば）	69.2	%	70.0	%
			地域販売金額（そば）	20,282	千円	20,000	千円
			作付面積（野菜・花き）	55	ha	61	ha
			担い手割合（野菜・花き）	69.2	%	70.0	%
			地域販売金額（野菜・花き）	1,046	百万円	1,050	百万円
			作付面積（豆類・馬鈴薯）	49.5	a	65.0	a
			担い手割合（豆類・馬鈴薯）	46.2	%	40.0	%
			地域販売金額（豆類・馬鈴薯）	138	千円	160	千円
			作付面積（デントコーン・子実とうもろこし）	33	ha	31	ha
			担い手割合（デントコーン・子実とうもろこし）	66.7	%	88.0	%
			地域販売金額（デントコーン・子実とうもろこし）	11,206	千円	11,500	千円

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）		目標値	
				（4年度）	（5年度）	（4年度）	（5年度）
9	野菜・花卉	振興作物助成	作付面積	55 ha	61 ha		
10	豆類・馬鈴薯	振興作物助成	作付面積 販売金額	49 a 138 千円	65 a 160 千円		
11	地力増進作物	振興作物助成	連作回避を目的とした作付面積 基盤整備に伴う作付面積	1 ha 0 ha	5 ha 15 ha		
12	大豆・そば・牧草・デントコーン（子実とうもろこし含む）	団地化加算	作付面積（大豆） 団地化率（大豆） 作業時間削減率（大豆播種） 作付面積（そば） 団地化率（そば） 作業時間削減率（そば播種） 作付面積（牧草） 団地化率（牧草） 作業時間削減率（牧草播種） 作付面積（デントコーン） 団地化率（デントコーン） 作業時間削減率（デントコーン播種） 作付面積（子実とうもろこし） 団地化率（子実とうもろこし） 作業時間削減率（子実とうもろこし播種）	131 ha 31.5 % 12.6 % 205 ha 20.6 % 8.3 % 480 ha 64.2 % 28.6 % 18 ha 71.3 % 28.5 % 15 ha 0 % 0 %	105 ha 60 % 30 % 186 ha 30 % 12 % 500 ha 68 % 30.2 % 14 ha 54 % 29.3 % 17 ha 40 % 16 %		
13	大豆（黒大豆含む）	条件不利地生産性向上加算	取組面積 条件不利地での取組率 平均収量	14 ha 34.7 % 160 kg/10a	13 ha 70 % 200 kg/10a		
14	そば・牧草	条件不利地生産性向上加算	取組面積（そば） 条件不利地での取組率（そば） 平均収量（そば） 取組面積（牧草） 条件不利地での取組率（牧草） 平均収量（牧草）	72 ha 84 % 42 kg/10a 117 ha 38.9 % 322 kg/10a	90 ha 94 % 70 kg/10a 120 ha 60 % 360 kg/10a		
15	牧草	飼料作物団地化特別加算	作付面積 3 ha団地化率 作業時間削減率	480 ha 64.2 % 28.6 %	500 ha 85 % 35 %		
16	大豆・そば・デントコーン（子実とうもろこし含む）	品質・収量向上技術取組加算【土壌改良】	作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし）	131 ha 160 kg/10a 205 ha 42 kg/10a 18 ha 3,370 kg/10a 15 ha 433 kg/10a	105 ha 205 kg/10a 186 ha 70 kg/10a 14 ha 4,100 kg/10a 17 ha 500 kg/10a		

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
17	そば	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	作付面積	(4年度) 205 ha	(5年度) 186 ha
			平均収量	42 kg/10a	70 kg/10a
18	大豆	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	作付面積	(4年度) 131 ha	(5年度) 105 ha
			平均収量	160 kg/10a	205 kg/10a
19	デントコーン（子実とうもろこし含む）	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	作付面積（デントコーン）	(4年度) 18 ha	(5年度) 14 ha
			平均収量（デントコーン）	3,370 kg/10a	4,100 kg/10a
			作付面積（子実とうもろこし）	15 ha	17 ha
			平均収量（子実とうもろこし）	433 kg/10a	500 kg/10a
20	牧草	品質・収量・供給力向上取組加算	作付面積	(4年度) 480 ha	(5年度) 500 ha
			平均収量	322 kg/10a	360 kg/10a
21	飼料作物	資源循環助成（耕畜連携）	作付面積	(4年度) 480 ha	(5年度) 500 ha
			取組率	22.3 %	23 %
22	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組拡大助成（追加配分）	取組面積	(4年度) 18 ha	(5年度) 20 ha
23	新市場開拓用米	複数年契約助成（追加配分）	取組面積	(4年度) 18 ha	(5年度) 20 ha
24	そば	そば作付助成（追加配分）	作付面積	(4年度) 205 ha	(5年度) 186 ha
			平均収量	42 kg/10a	70 kg/10a
			等級そば生産率	98.5 %	99 %
			作業時間削減率	8.3 %	12 %

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:北海道

協議会名:当麻町地域農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	品質・収量向上除草対策加算	1	600	そば・デントコーン(子実とうもろこし含む) (いずれも基幹作物のみ)	除草剤散布1回以上
2	品質・収量向上除草対策加算	1	1,200	大豆(基幹作物のみ)	除草剤散布(土壌処理・茎葉散布 各1回以上)
3	品質・収量向上除草対策加算	1	1,400	大豆(基幹作物のみ)	除草作業(カルチ作業)2回以上
4	排水対策助成	1	2,000	そば・大豆・デントコーン(子実とうもろこし含む) ・牧草(いずれも基幹作物のみ)	心土破碎の施工等
5	品質安定加算	1	5,800	大豆(基幹作物のみ)	刈取・乾燥調製委託、かつ地区別統一播種基準に基づき播種作業
6	品質安定加算	1	8,100	そば(基幹作物のみ)	刈取・乾燥調製委託、かつ地区別統一播種基準に基づき播種作業
7	品質安定加算	1	9,200	子実とうもろこし(基幹作物のみ)	刈取・乾燥調製委託、かつ地区別統一播種基準に基づき播種作業
8	担い手振興作物加算	1	8,200	そば・野菜・花き・豆類・馬鈴しょ・デントコーン・子実とうもろこし(品目名については別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	認定農業者・認定新規就農者であること
9	振興作物助成	1	33,900	野菜・花き(品目名は別紙参照)(いずれも基幹作物のみ)	助成対象作物(野菜・花き)の作付け
10	振興作物助成	1	18,000	豆類・馬鈴しょ(品目名は別紙参照)(いずれも基幹作物のみ)	助成対象作物(豆類・馬鈴しょ)の作付け
11	振興作物助成	1	4,500	地力増進作物(品目名は別紙参照)(基幹作物のみ)	畑作物の連作障害の回避を目的とした地力増進作物の作付け
12	団地化加算	1	7,600	大豆・そば・牧草(品目名については別紙参照) ・デントコーン(子実とうもろこし含む)(いずれも基幹作物のみ)	単一作物での連坦による5ha以上の団地形成
13	条件不利地生産性向上加算	1	7,600	大豆(黒大豆含む)(いずれも基幹作物のみ)	条件不利地における融雪期の簡易溝切作業
14	条件不利地生産性向上加算	1	7,600	そば・牧草(品目名については別紙参照)(いずれも基幹作物のみ)	そば:無人ヘリによる追肥等 牧草:1番草の掃除刈り等
15	飼料作物団地化特別加算	1	9,600	牧草(品目名については別紙参照)(いずれも基幹作物のみ)	単一作物での連坦による概ね3ha以上の団地形成
16	品質・収量向上技術取組加算【土壌改良】	1	1,500	大豆・そば・デントコーン(子実とうもろこし含む) (いずれも基幹作物のみ)	土壌改良成分の含まれた融雪剤の散布等
17	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	1	800	そば(基幹作物のみ)	窒素成分量3kg(10a当たり)以上の施肥
18	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	1	500	大豆(基幹作物のみ)	緩効性肥料による施肥
19	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	1	500	デントコーン(子実とうもろこし含む)(いずれも基幹作物のみ)	窒素成分量4kg(10a当たり)以上の施肥
20	品質・収量・供給力向上取組加算(草地簡易更新)	1	1000	牧草(品目名については別紙参照)(いずれも基幹作物のみ)	適正播種量(2.0~2.5kg)で播種の実施等
21	資源循環助成(耕畜連携)	3	11,500	飼料作物(品目名については別紙参照)	利用供給協定を結び堆肥を散布
22	新市場開拓米取組拡大助成(追加)	1	20,000	新市場開拓用米	新市場開拓用米の作付け
23	複数年契約助成(追加)	1	10,000	新市場開拓用米	新市場開拓用米の複数年契約締結
24	そば作付助成(追加)	1	20,000	そば	除草剤散布1回以上等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができます。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載して下さい。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。